

保育フェスティバルの運営と 保育フェスティバルにおける大型遊具の製作と活用

守川 美輪

Making of the childcare festival,
And making and using of large toys at the childcare festival

Miwa MORIKAWA

1. はじめに

本学保育科は平成20年10月25日（土）・26日（日）に本学交流センターにおいて第1回保育フェスティバルを開催した。以降継続して開催し、今年度は平成26年10月25日（土）に本学交流センター・平成26年11月29日（土）にイオンモール宮崎イオンホールで開催した。初年度は手探りで進行し、来場者は運営担当の学生・教員より少ない位であったが、7年間で次第に運営もスムーズになり、1・2年生の協力態勢が出来て、内容も一層充実してきた。近年、保育フェスティバルの楽しさが地域の方々に伝わって来たのか、本学での来場者は150名を越え、イオンモール宮崎イオンホールでの来場者は350名を超えるまでになった。

著者は保育科に所属し、1年目から運営に関わり、平成23年～平成25年は保育フェスティバル担当として企画運営を行った。平成26年は新たな担当者の補助的な役割で企画運営に関わった。著者は美術担当のため、会場の装飾作成や製作コーナーの企画と準備、学生指導を行った。また、会場に置く遊具の製作、学生が行うゲーム用の遊具の製作や製作指導を行った。

本稿ではまず、保育フェスティバルの運営について述べる。次に、大型遊具の製作方法と活用について報告する。幼児が数名同時に遊べるものを大型遊具とする。大型遊具は継続して使用できるので、どんな遊具があるか教職員や学生に知って頂き、来年度以降活用して頂ければ有難い。また、本稿が次年度以降の保育フェスティバル運営の参考、または他大学・短期大学において、新たに乳幼児と保護者対象のイベントを開催する際の参考になれば幸いである。

2. 保育フェスティバルの運営

(1) 保育フェスティバルとは

保育科学生がグループで行うイベントである。現在は、会場を0・1歳児の部屋、2歳以上児の部屋、製作コーナーに分けて実施している。0・1歳児の部屋では主に親子遊びを行う。2歳以上児の部屋では主にゲームや運動遊び、表現遊びを行う。製作コーナーでは、幼児向けの製作を行う。

(2) 目 的

保育科の授業等で習得した専門知識や技術を形にして披露することで、多くの方に本

学を知ってもらうこと、そして、学生の企画力、共働力、実践力を高め主体的に取り組むことを目的としている。また、近年保育フェスティバルは地域の方々に喜ばれ、地域に貢献する活動となっている。

(3) 保育フェスティバル委員会運営とリハーサル実施

保育フェスティバル委員を保育科1・2年生各6クラス(1クラス40名程度)の中から、各クラス4～6名選ぶ。保育科1・2年生は合同で担当の部屋の遊びの企画・運営をする。(例:保育科1年A組と保育科2年A組が協力)専攻科福祉専攻(1クラス50名程度)からは8～10名選ぶ。また、「ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」履修学生で、「保育フェスティバル」参加を希望する学生も受け入れる。(10名程度)

次の表に「保育フェスティバル委員会及びリハーサルの時期と内容」及び「保育フェスティバル委員会運営とリハーサル実施上の留意事項」について記す。時間については平成26年度実施の反省をふまえ、修正を加えている。また、委員会については、平成25年度実施の反省をふまえ、平成26年度実施より1回増やした案を示した。

保育フェスティバル委員会及びリハーサルの時期と内容			
回	時期	時間	内 容
前期オリエンテーション			「保育フェスティバル委員記入用紙」(※1) 配布
第1回	4月下旬	60分	1・2年顔合わせ、クラス代表者決め、連絡先交換 担当決め(0・1歳児対象、2歳以上児対象のどちらにするか) 内容話し合い 「保育フェスティバル活動希望調査」(※2) 配布説明 「保育フェスティバル委員会及びリハーサル予定」(※3) 配布
第2回	5月下旬	40分	内容調整(各クラスの内容の重複を避ける) 内容の詳細決定、購入または借用物品決定 (「保育フェスティバル活動希望調査」に詳細を記入)
第3回	6月下旬	20分	プログラム案(※4) 配布(記載の誤りや内容変更希望があれば受ける) 材料配布説明 「1,2年生の役割分担記録」(※5) 配布回収
第4回	登学日	60分	めくり式プログラム作成用紙配布 「1,2年生の役割分担記録」提示 「保育フェスティバル保育指導案」(※6) 配布
後期オリエンテーション			「保育フェスティバル保育指導案」回収 「保育フェスティバルリハーサル希望日時記入カード」(※7) 配布提出
第5回	10月中旬	40分	「保育フェスティバル実施要項(本学)」(※8) 配布留意事項・ 分担説明 「イオン交通調査」(※9) 配布 「本学保育フェスティバルまとめと今後の課題」(※10) 配布
保育フェスティバル前々日まで			リハーサル実施日時場所を掲示し、リハーサル実施(各クラス2回)

保育フェスティバル前日 (本学)			午前中 めくり式プログラム回収 会場設営13:00～ 前日リハーサル14:00～
保育フェスティバル当日 (本学)			保育フェスティバル10:00～15:00 会場片づけ15:00～16:00
10月末日まで			「イオン交通調査」回収 「本学保育フェスティバルまとめと今後の課題」回収
第6回	11月中旬	40分	本学保育フェスティバル反省 「保育フェスティバル実施要項(イオン)」(※11) 配布留意事項・分担説明
保育フェスティバル前日 (イオン)			荷物の運び降ろし14:40～15:00、16:20～16:40
保育フェスティバル当日 (イオン)			搬入8:30～9:00 会場設営9:00～10:00 保育フェスティバル10:00～15:30 搬出・荷降ろし・片づけ15:50～18:00

保育フェスティバル委員会運営とリハーサル実施上の留意事項	
前期オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 学級主任に「保育フェスティバル委員記入用紙」を配布し、クラスアワーで選出する。意欲のある学生の立候補が望ましい。 クラスの2年生保育フェスティバル委員が全員男子学生だった場合、委員会に出会せず、準備が遅れ、結果として1年生に任せるということが2年連続であった。各クラスで保育フェスティバル委員を選出する際、女子学生を1名以上選ぶよう学級主任に伝えておく。
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 前年度のチラシ(プログラム)を配布し、概要を説明する。 対象の選択において、学生は2歳以上児対象の方がやりやすいと考えていることが多いので、0・1歳児対象の遊びの例や魅力、就職後の活用等について大いに伝えてから選ばせる。 内容話し合いに適宜教員が入り、遊びの例を示す。 「保育フェスティバル委員会及びリハーサル予定」を配布し、計画的に準備できるようにする。 「保育フェスティバル活動希望調査」配布説明する。(5月末日までに提出)提出日までに担当教員が相談を受ける。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 「保育フェスティバル活動希望調査」をもとに2年生から、1年生に向けて説明し、1年生から意見やアイデアが出せるようにする。 「保育フェスティバル活動希望調査」に目を通しておき、内容の重複があれば、変更の検討をする。 内容が少ない場合は内容を充実させ、詳細を記入させる。 導入や展開、まとめについて意識させ、遊びの流れがよくなるようにする。 材料用具については購入担当者が確認しながら聞き、材料の色や大きさ、素材などを把握し、「保育フェスティバル活動希望調査」に記入する。

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム案を作成しておき、記載事項の誤りを修正する。また、他クラスの内容を知った上で、内容変更できるようにする。 ・役割分担を決め、「1, 2年生の役割分担記録」に記入し提出させる。 ・プログラム案を作成する際、設営に手間取るクラスは午前中1番目か午後1番目とする。自由遊びは前後の時間担当のクラスが受け持ち、設営した遊具で遊べるようにする。また、幼児用マットなどの物品が2つの部屋で上手く使えるようにする。 ・材料は後日、受け取るよう伝える。材料配布の際、箱にクラスを記し置き場を示す。余った材料は返却するよう伝える。 ・リハーサルは後期から実施する。1年生は授業の関係でリハーサル参加が難しいので、2年生が主体となって頑張れるように励ます。また、前日リハーサルは1・2年生合同で実施することを伝える。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・めくり式プログラム用紙を配布し、製作させる。(保育フェスティバル前日午前中までに担当教員に提出) 朝1番目の担当クラスは「自由遊び」の製作もするよう伝える。 ・「保育フェスティバル保育指導案」を各クラスに配り、「1, 2年生の役割分担記録」を見ながら、言葉掛けや保育の流れや立ち位置等について記入できるようにする。「保育フェスティバル保育指導案」は当日または後期オリエンテーションで提出させ、コピーを取った後返却する。
後期オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育フェスティバル保育指導案」回収 ・「保育フェスティバルリハーサル希望日時記入カード」を学級主任から2年生及び専攻科福祉専攻保育フェスティバル委員に渡してもらい、保育フェスティバル委員が後期時間割を見て記入できるようにする。(当日中に担当教員に提出)
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育フェスティバル実施要項(本学)」には、設営・撤去の学生の動きとその指導担当者を明示し、スムーズに動けるようにする。 ・留意事項説明においては、過年度の反省や参加者アンケートに記入された賞賛や要望等を伝え、学生が意欲を持って規律よく取り組めるようにする。 ・受付や製作コーナーの分担があるので、昼食休憩をいつとるか各クラスで決める。 ・「イオン交通調査」(10月末日までに提出)をクラス代表学生に配布し、記入させる。トラックへの積み込み・会場への搬入、搬出・短大での片づけを短大バス乗車者が担当する。人手が必要なので、各クラス2名は短大バスに乗るようにしてほしい旨説明する。(当日手配する中型バスを短大バスと呼んでいる) ・イオンの催しによっては駐車場の使用を制限される場合があるので、その際は送迎や公共交通機関の利用を勧める。 ・「本学保育フェスティバルまとめと今後の課題」(10月末日までに提出)をクラス代表学生に渡し、反省点や改善すべき点を明らかにすることで、イオン会場でのフェスティバルに活かしたい旨伝える。

リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> • 前々日までのリハーサルはクラス毎に、教員１～２名と２年生保育フェスティバル委員で行う。実施内容にふさわしい教員が担当する。音楽を使う場合は音楽担当教員が入る。 • リハーサル担当者は、「保育フェスティバル保育指導案」のコピーをリハーサル指導者に渡しておく。 • リハーサル指導者は第１回と第２回の両方を担当できるようにする。２名とも交替する際は「保育フェスティバルリハーサル引き継ぎメモ」（※12）を活用する。 • リハーサルは子どもに参加を呼び掛けるところから練習する。１回目には学生は戸惑う場面があるが、課題が明確になるので、次に向けて修正することができる。 • 前日リハーサルは会場においてプログラム順に14:00から１クラス30分間で行う。予定時間を「保育フェスティバル実施要項（本学）」に記す。 • 前日リハーサルは１・２年生合同で行い、各部屋２名が指導をする。学生は20分前には会場に来て、１・２年生で打ち合わせをする。 • 前日リハーサルは設営・片づけを含み、片づけ場所を決め、設営時の子どもへの声掛けの練習もする。活動をリードする学生とその他の学生の立ち位置や声掛け、伴奏や演技の確認をする。
第６回	<ul style="list-style-type: none"> • 「本学保育フェスティバルまとめと今後の課題」をもとに、イオンの保育フェスティバルに向けて修正すべき点があれば伝える。 • 「宮崎学園短期大学保育フェスティバルアンケート」（※13）に寄せられた感想を紹介し、修正すべき点を伝えとともに、参加者が喜んでいることを伝え、意欲を高める。 • 「保育フェスティバル実施要項（イオン）」を配布し留意事項・分担を説明し、自分のクラスの動きが把握できるようにする。特にイオンからの会場への出入りの方法や使用する駐車場などは詳しく伝え、学生が守れるようにする。 • 各クラスで使用する物品が破損している場合は、修理しておくように伝える。

以下、配布資料の項目を示す。

※1 保育フェスティバル委員

クラス

氏名

(注：人数、提出期日・提出先)

※2 保育フェスティバル活動希望調査

保育フェスティバル日時・場所

クラス

対象に○印 0・1 歳児の部屋・2 歳以上児の部屋

タイトル

内容

手遊び歌・読み聞かせ・パネルシアターをする場合
のタイトル

借りたい物品

購入してほしい物品

(注：対象の部屋以外は変更可能)

(提出期日・提出先)

※3 保育フェスティバル委員会及び

リハーサル予定

保育フェスティバル日時・場所

保育フェスティバル委員会開催時期と時間・内容

リハーサル実施時期と内容

※4 プログラム案

保育フェスティバル日時・場所

0・1 歳児の部屋

担当クラス・時間・タイトル・内容・絵本手遊び等・

借用物品・購入物品

2 歳以上児の部屋

担当クラス・時間・タイトル・内容・絵本手遊び等・

借用物品・購入物品

製作コーナーの時間、タイトル、内容、材料等

※5 1・2 年生の役割分担記録

担当クラスの部屋・時間・タイトル・内容

1 年生の担当内容

2 年生の担当内容

準備計画

※6 保育フェスティバル保育指導案

担当クラスの部屋・時間・タイトル・内容

保育の流れ・役割分担

設営図・学生配置図・準備物

(提出期日・提出先)

※7 保育フェスティバルリハーサル希望日時記入カード
クラス

対象に○印 0・1 歳児の部屋・2 歳以上児の部屋

タイトル

(注：○月○日から○月○日までの授業時間または放
課後を第4希望まで記入 各クラス2回のリハーサル
実施を予定)

第1希望日時

第2希望日時

第3希望日時

第4希望日時

(注：リハーサル日時場所は掲示で知らせる。2 年生
は全員準備物(絵本や製作物等)を持って5分前に集
合)

(提出期日・提出先)

※8 保育フェスティバル実施要項(本学)

目的

日時・会場

準備・片づけ(日時と手順)

リハーサル予定

会場設営と片づけ(日時、担当、手順、内容、指導者)

留意事項

使用備品一覧

プログラム

教員役割分担

保育フェスティバル委員名簿

設営図

タイムスケジュール

※9 イオン交通手段調査

保育フェスティバル委員 クラス 氏名

(注：各クラス2名は短大からのバスに乗る)

(記入：短大バス・路線バス・送迎・自家用車・徒歩・

乗り合わせ○○さんの車・自転車)

(提出期日・提出先)

※10 保育フェスティバルのまとめと今後の課題

学年・クラス

気付いたこと、頑張ったこと、良かったこと、修正す
べき点等

準備・リハーサル・当日の動きイオンに向けて

保育フェスティバル運営についての意見、要望、提言

(提出期日・提出先)

<p>※11 保育フェスティバル実施要項（イオン）</p> <p>目的 日時・会場 準備・片づけ（日時と手順） 前日準備 当日集合場所・時間 当日設営（日時、担当、手順、内容、指導者） 当日片づけ イオン駐車場 留意事項 プログラム 教員役割分担 保育フェスティバル委員名簿 設営図 前回アンケートより タイムスケジュール</p>	<p>※12 保育フェスティバルリハーサル引き継ぎメモ</p> <p>クラス 月日 記入者名 活動名 活動状況 指導事項 次回までの課題など その他気付いたこと</p>
	<p>※13 宮崎学園短期大学保育フェスティバルアンケート</p> <p>保育フェスティバルの開催を知った方法（選択） 参加（見学）したプログラム（選択） 保育フェスティバルに参加した感想</p>

(4) 教職員の役割

保育フェスティバル担当は保育科教員5名（内リーダー1名）とした。役割の多くを保育フェスティバル担当が務めた。保育フェスティバルは宮崎学園短期大学広報部が統括している。広報部長が起案書作成、保険の手配及び対外交渉を行った。

委員会開催	3名	留意事項説明会実施	3名
実施要項作成	1名	学生配布用資料印刷	1名
チラシデザイン及び立て看板作成	1名	バス・トラック手配及び県庁投げ込み	1名
受付係学生指導	2名	製作コーナー指導	1名
来場者アンケート作成及び集計	1名	リハーサル実施調整	1名
バス乗車者名簿作成及びイオン昼食費配布	1名	各クラス（2年生）リハーサル指導	6名
使用物品一覧作成及び物品購入	1名	前日リハーサル指導	4名
前日設営指示	8名		

(5) 保育フェスティバル留意事項

学生に説明する留意事項はこれまでの保育フェスティバル実施後の反省や、参加者アンケート結果から整理して「保育フェスティバル実施要項」に記し、第5回委員会で伝えている。次に示した留意事項は「平成26年度保育フェスティバル実施要項」に示した内容を、平成26年度保育フェスティバルで得た参加者アンケートをもとに修正したものである。

服装など	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は長袖（半袖可）、長ズボンの清楚な私服とエプロンとする。 ・靴は運動靴かローファーにする。（スリッパ、ハイヒール、ブーツ、クロックス禁止） ・薄化粧、長い髪は結ぶ、ピアスは外す、マニキュアは消す。 ・保育者としてふさわしい言動となるよう、自覚を持つてのぞむ。 ・学生は会場内飲食禁止・携帯禁止・写真撮影禁止（学内では会場の端で飲料を飲む程度はよい。イオンではバックヤードで飲料を飲む程度はよい。従業員休憩室を使ってよい。） ・喫煙所であっても喫煙は禁止。 ・イベント用荷物は本学では食堂の入口から入って左机の下または奥机の下に置く。自分の荷物はロッカーへ。貴重品は各自で管理。 ・イベント用荷物はイオンでは倉庫に置く。0・1歳児の部屋は裏の小さな物置に置く。自分の荷物は倉庫に。貴重品は各自で管理。 ・昼食はエプロンをはずし、マナーを守って、静かにとる。昼食休憩は大人数で行動しない。 ・担当時間外は混雑しないよう会場から出る。 ・現地集合者は従業員入口から入り、担当教員または警備員の指示に従い、「入店証」を下げた上で会場に入る。（イオン） ・全員揃ったクラスは担当教員からで昼食代を受け取る（クラス代表者）。（イオン） ・担当時間終了後退場する場合は、「入店証」を下げ、通路を通過して従業員入口に降り、警備員の指示に従って退出時間を記録し「入店証」を返却した上で退出する。（イオン） ・担当の交替、出演等の指示は出さない。各自時間を守って、交替、スタンバイする。 ・身近に子どもさんがいらしたら、ぜひご案内ください。
受付	<ul style="list-style-type: none"> ・保育フェスティバル実行委員4名で担当する。（イオンは7～8名で担当） ・担当時間の10分前には会場に入り、交替の準備をする。 ・受け付け時もエプロン着用。気持ちの良い挨拶、明るい笑顔で対応する。 ・ホームページ等のため写真を撮影させてもらいたい旨お伝えする。 ・受付表記入後アンケート、プログラム等が入った袋をお渡しする。 ・子どもの名前をシールに記入してお渡しし、左腕や肩に貼ってもらう。 ・進学相談希望があれば、担当者に伝える。 ・会場を出る参加者にはアンケート記入をお願いし、アンケート回収時にお礼を言う。 ・お手洗い、授乳室の位置を把握しておき、すぐに答えられるようにする。 ・本学の会場では親子の飲食は認める。
製作コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・担当時間の10分前には会場に入り、交替の準備をする。 ・やさしく参加を呼び掛ける。幼児以外も製作できる。（小学生、高校生、大人）看板に「どなたでも製作できます」と書いておくといよい。 ・イベントの開始時にはそちらに参加するよう呼び掛ける。 ・安全に留意する。意識して机上を整頓する。ちりは拾ってちり入れに。 ・混雑していない場合は、複数製作も認める。 ・製作材料について色画用紙や紐を適切な大きさに切っておくなど、下準備をしておく。 ・スタッフ全員がつくり方を学んでおく。 ・お客が増えたら、学生は席を譲る。 ・交替の指示はしない。各自時間を守って、交替、スタンバイする。

教 員	<ul style="list-style-type: none"> • 出来るだけ、活動的な姿とする。ネームプレートをつける。 • イオンでは倉庫内で休憩する。会場の椅子に座らない。 • イオンでは写真撮影禁止。(イオン事務室で撮影許可を得た者のみ写真撮影可)
各 部 屋	<ul style="list-style-type: none"> • 1年生と2年生共同で担当する。 • 担当時間の10分前には会場に入り、交替の準備をする。 • 各クラスめくり式プログラムを製作する。朝一番の担当クラスは「自由遊び」のめくり式プログラムも作成する。 • めくり式プログラムは担当クラスが忘れずめくる。 • 優しく参加を呼び掛ける。 • 安全に留意する。 • イベント時には使わない玩具は端に寄せ、片づけておく。 • 0・1歳児の会場では、自由遊びの時間には準備してある遊具の中から、好きな遊具を選んで広げてよい。遊んでいない遊具は片づけてよい。見えないように布で覆うのもよい。 • イベント終了後はサッサと片づける。ここまでが演技。 • 2歳以上児の会場では、前の催しが終わったら、次のイベント担当クラスは準備をするが、保育フェスティバル委員1,2名は次の遊びの紹介をするなど、楽しんで待てるようにする。 • 2歳以上児の部屋は通常靴を履いたまま活動する。靴を脱がせた場合は忘れず履かせる。 • 歌を歌う場合は歌詞を書いて示すと良い。 • 子どもは預からない。(近くにいた教員に相談) • 玩具の持ち帰りがないように注意する。 • イベントのお土産に首に掛けるようなメダルなどは避ける。(そのまま遊ぶと危険なため)

(6) プログラム

ここ4年間のプログラムを示し、各回の説明、解説をする。

第4回保育フェスティバル 平成23年10月22日(土)・12月3日(土) 10:00～15:00			
時 間	0・1歳児	時 間	2歳以上児
10:30～10:45	ふれあいあそび	10:30～11:00	はらぺこあおむし
10:45～11:00	親子で運動あそび	11:00～11:10	エブロンシアター
11:10～11:35	ペープサート、エブロンシアター	11:10～11:40	さかなつり ボーリング
11:40～11:55	さわってあそぼう	11:40～12:10	くまさん探検隊
12:05～12:20	コロリンリンボトル	12:10～12:40	エブロンシアター
12:40～12:55	ふれあいあそび	12:45～13:15	運動あそび
13:00～13:15	ボーリングゲーム	13:15～13:25	エブロンシアター
13:25～13:40	ふれあいあそび	13:25～13:55	キックスナイパー パクパクキャンディ 輪投げ
13:50～14:05	ふわふわ夢の国	13:55～14:10	ゲーム

14:20～14:00	クレヨンお絵かき	14:40～14:55	手あそび歌 絵本の読み聞かせ
時 間	製作コーナー	時 間	製作コーナー
10:00～11:20	牛乳パック羽子板	10:00～11:20	折り紙リース
11:20～12:30	風船ふたさん	11:20～12:30	クリスマスツリー
12:30～13:40	紙のお店ごっこ	12:30～13:40	紙コップ天使
13:40～15:00	ケーキ屋さん	13:40～15:00	折り紙サンタさん

第4回では、2年生は0・1歳児の部屋と2歳児の部屋の両方の内容を企画運営した。2年生は両方の企画を準備しなければならず、負担が大きかった。その反面両方の運営をしたという充実感があつた。1年生は出来そうな遊びと製作を担当した。様々な内容を盛り込みすぎ、担当時間が短く、あそびが細かく分断されたのが問題であった。製作コーナーは時間ごとに内容を変えて実施したが、子どもが作りかけの時には完成させたので、交替に時間がかかった。

第5回保育フェスティバル 平成24年10月27日（土）10:00～15:00・12月1日（土）10:00～16:00			
時 間	0・1歳児	時 間	2歳以上児
10:00～12:00	親子ふれあいあそび	10:00～11:20	アドベンチャーゲーム
12:00～13:00	手づくりおもちゃであそぼう	11:20～12:10	アニマルゲームス
13:00～14:00	アドベンチャーワールド	12:10～13:20	メダルゲットだぜ
14:00～15:00	親子ふれあいあそび	13:20～14:10	モンキッキージングル
15:00～16:00	アドベンチャーワールド	14:10～15:30	シアターと製作あそび
終日：製作コーナー 風船ぶたさん ケーキ屋さん			

第5回では、1・2年生合同で企画運営し、0・1歳児の部屋と2歳児の部屋のどちらかを担当した。1年生が経験を積むいい機会となった。各内容の時間を1時間程度とし、自由遊びを含めて、ゆったりと活動できるようにした。10:00～10:30頃までは来場者が少ないので、10:00から担当するクラスの時間を長く設定した。0・1歳児の部屋を希望するクラスが少なく、開催時間が長かったので、0・1歳児で「アドベンチャーワールド」を2回実施した。製作コーナーは内容を2つに絞り、2ヶ所で終日実施した。どちらの製作も好評であった。

第6回保育フェスティバル 平成25年10月26日（土）・11月30日（土） 10:00～15:30			
時 間	0・1歳児	時 間	2歳以上児
10:00～11:30	一緒にあそぼう	10:00～11:40	アニマルランド
11:30～12:30	動物コロコロ	11:40～12:00	ミニコンサート
12:30～13:30	親子ふれあいあそび	12:00～13:00	汽車でGo♪
13:30～14:30	手づくりおもちゃで一緒にあそぼう	13:00～14:10	迷路で誰に会えるかな
		14:10～14:30	ミニコンサート
14:30～15:30	一緒にあそぼう	14:30～15:30	キッズアドベンチャー
終日：製作コーナー さかな釣り（4種）・クリスマス飾り（4種）			

第6回では音楽科の学生が2歳以上児の部屋で2回ミニコンサートを実施した。製作コーナーは、内容が適切でなかったのか、製作に取り組む子どもの数が少なかった。

第7回保育フェスティバル			
平成26年10月25日（土）10：00～15：00・11月29日（土）10：00～15：30			
時 間	0・1歳児	時 間	2歳以上児
10：00～10：30	自由遊び	10：00～10：30	自由遊び
10：30～11：30	親子ふれあい音楽遊び	10：30～11：30	三匹のやぎのガラガラドン
11：30～12：30	親子で遊ぼう	11：30～12：30	汽車に乗ってGO！
12：30～13：30	自由遊び	12：30～13：30	自由遊び
13：30～14：30	段ボールランド	13：30～14：30	アニマルアドベンチャー
14：30～15：30	親子ふれあい遊び	14：30～15：30	おどってあそんでウォッチッチ！
終日：製作コーナー 風船ぶたさん			

第7回では来場者の少ない10：00～10：30と多くの親子が昼食のため会場を出る12：30～13：30を自由遊びの時間とした。自由遊びにおいてはその前または後の担当クラスが環境設営をし、担当学生は、設営したおもちゃで子どもが遊ぶことを援助した。2歳以上児の部屋の活動場所を広げるため、製作コーナーを1ヶ所に絞って実施した。

ここ4年間の中で最も時間分けがすっきりとした。1・2年生が合同で企画運営することで、前年の内容を踏まえたものが出てきている。その例として、動物をテーマにした「アニマルゲームス」→「アニマルランド」→「アニマルアドベンチャー」がある。前年に製作した遊具の一部を継続して使い、新たなアイデアで遊具を作り足している。また、「汽車でGo♪」→「汽車に乗ってGo！」は汽車に乗って次のゲームを目指すというアイデアを継続している。「キッズアドベンチャー」→「三匹のやぎのガラガラドン」は平均台やマット、跳び箱等を使ったサーキット遊びという共通点がある。

製作コーナーについては、試行錯誤が続いている。「風船ぶたさん」は風船に顔、足、尾をつけ、紐で引いて連れ歩けるので、会場外でそれを見た親子が製作したいとやって来ることが期待できる。学内での保育フェスティバルでは、午前中に入場した親子が午後まで留まる場合が多かった。午後からの来場者が少なかったので、午後は製作コーナー参加者が少なかった。

(7) タイムスケジュール

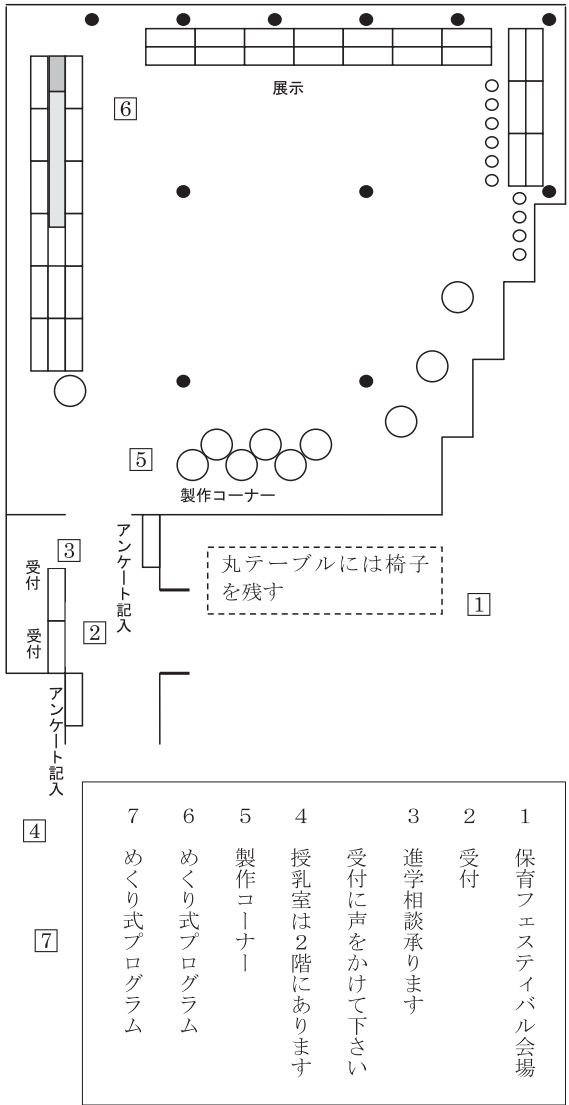
平成26年度のタイムスケジュール（イオン）を示す。7年間で最もすっきりとした形となった。どのクラスも受付製作と各クラスのプログラムが30分以上離してある。また、どのクラスも11:00～14:00の間に1時間以上の昼食休憩時間が取れるようにしている。

時間	受付製作	時間	0・1歳児の遊び場		2歳以上児の遊び場	
10：00～ 11：00	D組	10：00～ 10：30	福祉専攻	自由遊び	A組	自由遊び
		10：30～ 11：30	福祉専攻 ボランティア	親子ふれあい 音楽遊び	A組	三匹のやぎの ガラガラドン
11：00～ 12：00	E組	11：30～ 12：30	D組	親子で遊ぼう	C組	汽車に乗ってGO！
12：00～ 13：00	A組	12：30～ 13：30	D組 F組	自由遊び	C組 E組	自由遊び
13：00～ 14：00	B組	13：30～ 14：30	F組	段ボールランド	E組	アニマル アドベンチャー
14：00～ 15：00	C組	14：30～ 15：30	B組	親子 ふれあい遊び	ボランティア	おどってあそんで ウォッチッチ
15：00～ 15：30	F組					
製作コーナーは終日実施し、「風船ぶたさん」を製作する						

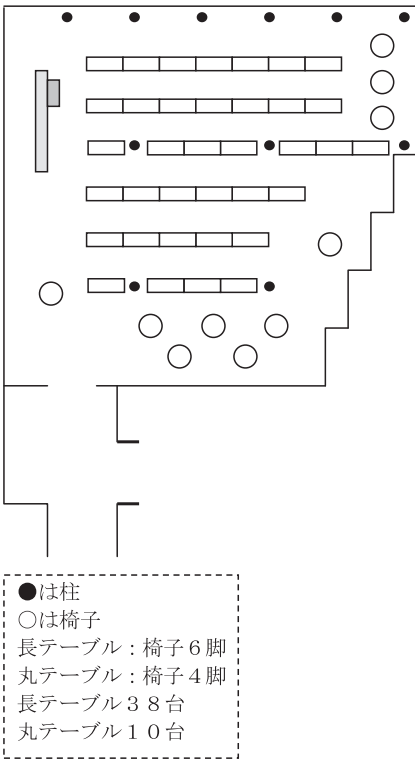
(8) 会場設営

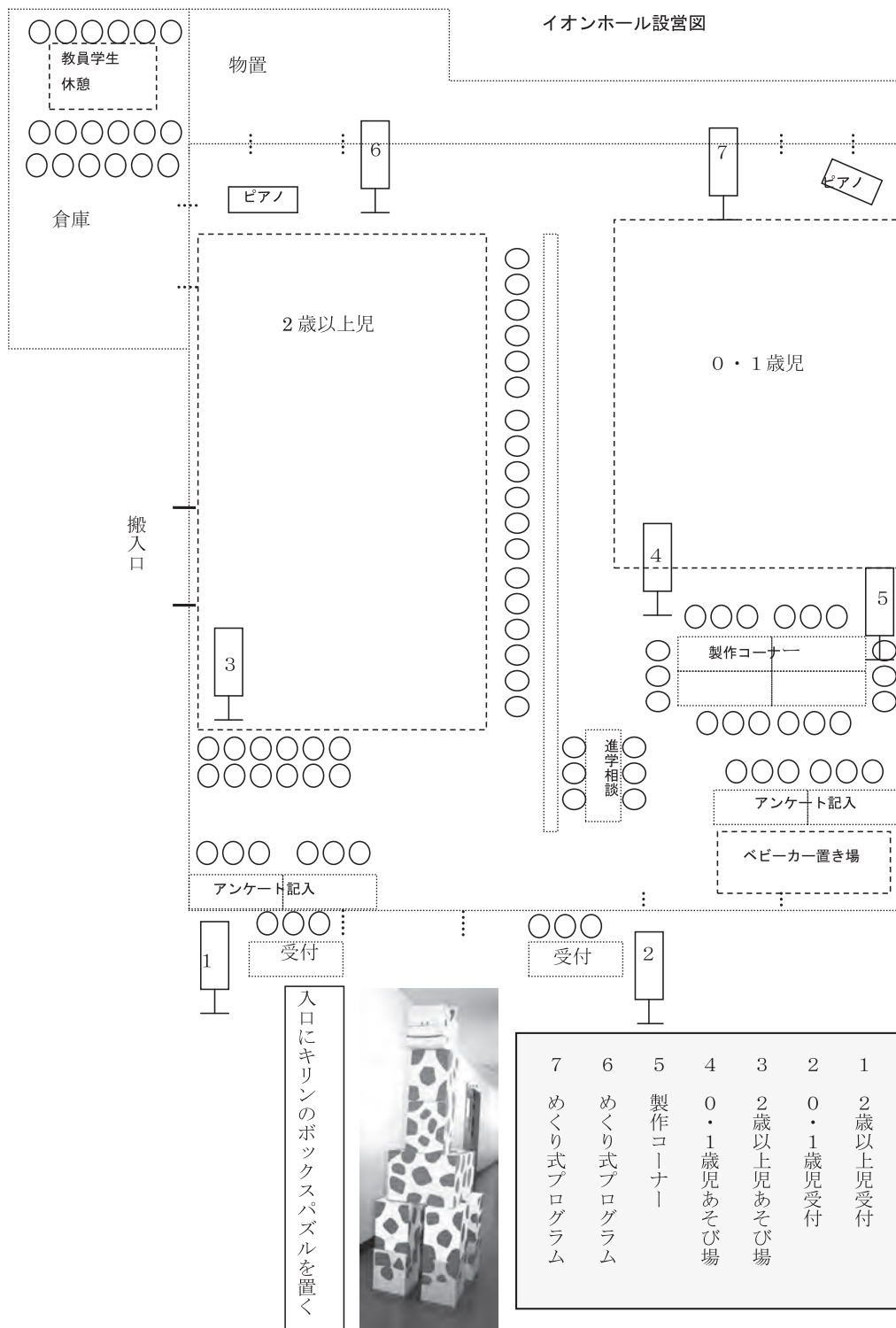
平成26年度の設営図を示す。

交流センター食堂（フェスティバル中）設営図



交流センター食堂（現状）





(9) 広 報

平成26年度年の広報先を示す。

チ ラ シ 配 布 先	箇 所	各配布数
子育て支援センター（子育て交流センター・子育て広場含む）	40	20
保健センター	6	20
県庁記者クラブ	1	20
宮崎市清武地域子育て支援センター	1	100
附属みどり幼稚園（教職員＋園児＋子育て支援活動）	1	300
附属清武みどり幼稚園（教職員＋園児＋子育て支援活動）	1	180
宮崎学園短期大学（教職員＋学生＋子ども音楽教育センター）	1	800
宮崎国際大学（教職員＋その他）	1	100
保育実習Ⅱ実習先	150	2
会場でプログラムとして配布	1	100
（イオン）	1	300
ボランティア実習等での活動先で配布（宮崎市民プラザ）	1	50
（宮交シティ紫陽花ホール）	1	50
その他		800
計		4000枚

「忍ヶ丘だより 第71号」案内掲載

「後援会だより 第22号」案内掲載

「宮崎学園短期大学ホームページ」案内掲載

「秋の忍ヶ丘祭 パンフレット」プログラム掲載

イオンモール宮崎入口大型ポスター掲示

(10) 当日運営

教員については下記のように担当を決めた。本学では午前9:30～12:30、午後12:30～15:00及び片づけとし、午前午後で交替をした。イオンでは早朝7:00～11:00、昼11:00～15:00、夕方15:00～19:00とし、保育フェスティバル担当教員は終日、その他の教員は交替で勤務した。早朝担当は搬入及び設営、夕方担当は搬出及び片づけを含む。

総括	1名	受付	1名	0・1歳児の部屋	1名
写真撮影	1名	進学相談・報道対応	1名	2歳以上児の部屋・救護（イオンのみ）	1名

教員の担当内容は下記の通りである。

- ・製作担当は学生が留意事項に沿って実施できるようにすることと、机上の整頓に心がける。
- ・各部屋担当は学生が留意事項に沿って実施できるようにすることと、安全に遊べるように気をつける。自由遊びの時間に音楽を流す。また、部屋の照明と空調が適切なものとなるようにする。
- ・受付担当は学生が留意事項に沿って実施できるようにすることと、不審者が入らない

よう気をつける。(親子連れ、進学希望の高校生・保護者が対象) また、本学においての授乳室の照明と空調が適切なものとなるようにする。

- ・イオンでは救急箱は午前中担当が保健室から借り受け、個別に持ち込む。午後担当が個別に持ち出し保健室に返却する。

(11) 参加者アンケート結果

参加者アンケートについては平成25年度保育フェスティバルにおいて、受付で配布し、回収した「宮崎学園短期大学保育フェスティバルアンケート」の記述を整理して示し、考察をする。

会 場	来やすかった。(イオン) 普段忙しいが、通りがかりでいろんな体験が出来てよかった。(イオン)
環 境	楽しい雰囲気だった。手づくりおもちゃが自宅での遊びのヒントになった。手づくりおもちゃに感動した。今まで遊んだことのない手づくりおもちゃがあり、子どもも興味を持っていた。おもちゃの作り方が勉強になった。手づくりのおもちゃに好感を持てた。子どもが興味を引くものがたくさんあった。準備が大変だったと思うが楽しかった。
内 容	年齢にあった遊びで楽しめた。工夫があつてよかった。色々なプログラムがあり、楽しかった。手遊び歌が参考になった。クオリティの高さにびっくりした。子どもがとても喜んでいて。実際の楽器の演奏を聞かせたかった。子どもが季節の製作を楽しんでいた。ピアノの演奏が上手でびっくりした。小学生が喜んで参加した。年齢別にプログラムが用意されていて兄弟がいる親としては助かった。
援 助	お姉さんお兄さんに遊んでもらって楽しかった。学生がいきいきと子どもと遊んでいた。学生の声掛けがよかった。育児の参考になった。学生が子どもにとってもよくしてくれた。学生が心のこもった遊びをしてくれた。学生が一生懸命対応してくれた。学生が積極的に相手をしてくれた。学生が優しくかった。1歳児が2歳以上児のプログラムに参加したが、しっかり見守ってくれて、のびのび遊べた。
親として	子どもの反応を見ることができた。日々のストレスからの解放になった。人見知りが激しい2歳児で心配だったが、夢中で遊んでいた。保育園に行っていないので、雰囲気が味わえた。子どもが帰りたくないと言ったので、とても楽しかったのだと思う。母親と離れて楽しく遊んでいてよかった。久しぶりに手遊び歌や親子触れ合い遊びができて面白かった。入園前の良い体験ができた。親子で楽しめた。同年代のお友だちと遊ぶ機会になった。
卒 業 生	先生方にお会い出来て嬉しかった。学生の皆さんは人前に立って発表する練習をたくさんしてほしい。
参 加	昨年も参加した。来年も来たい。毎年参加している。両方参加して良かった。

要 望	場 所	駐車場が分かりにくい。(本学) 人が多くてごちゃごちゃしていた。ベビーカーは外に置くべき。(イオン)
	運 営	時間になっても催しが始まらなくてどうしたらいいか分からなかった。食事スペースがあるとい。プログラムを会場内にも掲示するとよい。月1回くらいあると楽しい。内容が素晴らしいので回数がもっとあるとよい。手づくりおもちゃを販売するところがほしい。時間の設定があつたが、自由に遊ばせてもらいたかった。大人が多かったので子どもが少し怖がっていた。
	環 境	平均台の下にもマットを敷いてほしかった。おすすめ絵本コーナーがあるとよい。製作コーナーでは「どなたでも作れます」の張り紙があるとよい。作品づくりの掲示板やパネルがあるとよい。ミニコンサートのピアノの向きを子どもたちに手が見えるようにするとよい。コンサートの際、歌詞を掲示すれば皆で歌えた。おもちゃがもうすこし欲しかった。1歳未満児が安心していられるスペースがあるとよい。
	内 容	製作が1つしかなかったのは残念。製作コーナーが増えるとよい。手遊び歌など体を使うものが多いとよい。歌って踊れる内容があるとよい。0歳以上児対象のコンサートがあるとよい。親子向けの体験学習がもっとあるとよい。幼稚園のプレ体験のようなものがあるとよい。
	学 生 へ	学生の元気がもう少しあってもよい。絵本の読み聞かせは絵の大きい本を使い、読む人の表情など工夫したらよい。 学生がもっと声をだすと楽しい雰囲気になるのでは。

環境においては、手づくりおもちゃが評価されている。内容については、年齢別のプログラム及び、楽しい活動が評価されている。学生の援助においては、子どもと向きあい優しく楽しく丁寧に関わっている姿が参加者から喜ばれた。親としては、子どもが同年齢の子と遊ぶ良い機会になったことや、親と離れて子どもが遊んでいたことが喜ばれている。

要望においては、すぐに改善できる点については、担当の学生に直接伝えたり、「保育フェスティバル留意事項」に示したりして改善している。製作コーナーについて拡大の要望がある。平成25年度はミニコンサートを実施したが、平成26年度は実施していない。来年度以降短時間でもプログラムに入れるとよいのではないかな。

保育フェスティバルの回数を増やしてほしいという要望がいくつかある。実施する側は本学とイオンの2回実施で充分であると感じているが、現在「ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」で実施しているような「小規模な子育て支援活動」ならば、多少拡大できるであろう。

(12) 学生の感想

学生の感想については平成25年度本学保育フェスティバル終了後に「保育フェスティバルのまとめと今後の課題」を配布し、回収した記述から、整理して示す。

学生の記述のうち、提言の部分はすぐに「保育フェスティバル学生留意事項」に記すなどして修正したが、それだけに終わっていた。今回、学生の準備に関わる課題が明らかになった。

まずは、保育フェスティバルに向けての学生の準備を計画的に行えるようにすることである。製作物ができていなかったり、リハーサル当日になって親子遊び等の内容を決めたりするクラスがある。また、リハーサル時に初めて、演じる順番や、立ち位置、役割分担について考えるクラスがある。充実したリハーサルを実施するために、学生の計画性を高める手立てが必要である。

次に、1、2年生が話し合ったり、打ち合わせをしたりする機会を設けることである。2回のリハーサルは2年生を対象にして行い、1年生は前日リハーサルになってようやく保育フェスティバルの内容や、自分の役割を知ることになる。これを改善し、1、2年生がもっと協力できるようにしたい。

準備について	準備物製作や子ども達が楽しめるように考えるのが難しかった。 準備がなかなか進まなかった。計画的に準備をすればよかった。 初めてのことで分からないことが沢山あった。(1年生) 準備する個数などあらかじめ決めて、計画的に製作すればよかった。 跳び箱についてどれを何段運ぶのか戸惑った。詳しい情報を共有しておけばよかった。皆が積極的にしたので、スムーズに出来た。
設営について	物を直すスペースが狭かった。担当の部屋の設営をしたかった。
リハーサル実施について	リハーサルまでに準備が出来ていなかった。 学生同士で話し合ってリハーサルに臨めばよかった。 しっかりした考えを持ってリハーサルに臨めばよかった。 1度目のリハーサルで指摘されたことを2度目のリハーサルで改善できた。 リハーサルに全員が出られなかった。1年生は前日リハーサルからしか参加できなかった。よい練習になった。立ち位置の確認ができた。本番さながらにリハーサルが出来てよかった。
当日実施の難しさについて	学生の人数が少ないかもしれないと思った。(運動遊び) 子どもの相手が大変だった。人見知りをして話しかけても反応のない子どもがあった。考えていた通りの進め方が難しかった。 1年生がステージ発表と時間が重なり大変だった。
当日実施の良かったことについて	良く動けた。臨機応変に対応できた。子どもたちに自然に声掛けできた。 とても楽しく子どもと触れ合うことができた。笑顔で子どもと接することができた。子どもたちが多くて、やる気がでた。 子どもたちが喜ぶ姿を見ることができた。 想像以上に成功できた。思い通りにならなかったが、子どもたちが満足そうであった。 物品を一つにまとめて置き、他のクラスと共同で使うものは事前に置く場所を確認しておき、無事に進められた。

次回に向けて	<p>安全面の確保がもっと必要である。難しいゲームを修正したい。</p> <p>役割分担を明確にして、スムーズに動けるようにしたい。てきぱき行動したい。臨機応変に対応できるようにしたい。</p> <p>反応のうすい子にも声掛けをしていきたい。</p> <p>自分達も楽しんでもらいたい。子どもたちが楽しめるようにしたい。</p> <p>子どもが興味をもってくれる環境をつくりたい。良い雰囲気で行えるようにしたい。子どもが飽きないように様々な工夫をしたい。</p>
提 言	<p>アンケート（学生）は匿名の方が書きやすい。</p> <p>保育フェスティバル委員は意欲ある学生になるとよい。1・2年生でもっと協力したい。</p> <p>自分達で使わない風船プールが出ていた。片づけておいてほしかった。</p> <p>前のクラスのおみやげのメダルを首から掛けている子がいた。危険そうなものをおみやげにしないほしい。</p>

(13) 平成26年度保育フェスティバル入場者

平成26年10月25日（土） 宮崎学園短期大学交流センター 192名															
こども 80名						大人 112名									
0歳	1歳	2歳	3歳 4歳	5歳 6歳	小学生	参加者 家族	中学生	高校生	本学 学生	学生 保護者	他短大生	他大学生	幼保 教員	その他	
14	14	9	18	10	15	77	1	2	1	5	1	9	2	14	

平成26年11月29日（土） イオンモール宮崎イオンホール 372名															
こども 185名						大人 187名									
0歳	1歳	2歳	3歳 4歳	5歳 6歳	小学生	参加者 家族	中学生	高校生	本学 学生	学生 保護者	他短大生	他大学生	幼保 教員	その他	
34	43	27	54	20	7	174	3	4	0	2	1	0	0	3	

3. 大型遊具の製作と活用

(1) 著者が製作したもの

① 「ワカサギ釣り」「フェルト布のドーナツ」(注1)

ワカサギ釣りは穴の開いた木箱の中に木製の魚を置き、フックのついた棒または紐で釣り上げて遊ぶ。

フェルト布のドーナツは、シンプルな形の

もの、鈴をつけて音がでるもの、ボタンをつけて繋げて遊べるものがある。木製の柱に通して遊ぶことができる。幼児はトングでつかんだり、かごに入れたりして遊んだ。特にトングが人気で、1歳以上児で遊ぶ姿が見られた。



② 「おなかですいたかばくん」

段ボール箱を使って製作した「かばくん」の口に、ジャガイモに見立てたおじゃみを投げ入る。幼児用の玉入れ遊びから発想した。

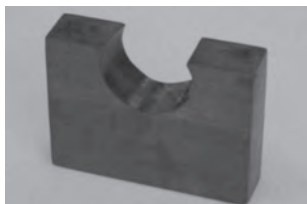
幼児の能力に応じて、距離を変えたり、口を開け閉めする間に投げ入れたりして遊ぶことが出来る。「かばくん」の上顎にあたったおじゃみは、口の中におのずと入るので、失敗が少ないという効果もあった。歯ブラシに見立てた柄付きタワシを使って幼児が歯を磨く真似をする姿があった。「かばくん」はピンク色に着色し、かわいらしい姿となった。箱の後ろに小さな扉を付けて、中のおじゃみを取り出せるようにしている。



③ 「コロピョン」(注2)

透明なホースと木玉を使ったおもちゃである。1歳以上の幼児が熱心に遊ぶ遊具となった。

左側はまっすぐ飛び、右側は木玉がカーブしながらホースの中を転がり飛び出して、小さな鉄琴を



入れた箱に落ち、音が鳴る。小型のものは0歳児から遊ぶことができた。

写真左は簡易型で、木製の支えでホースを固定した。写真右は普及型で、身近にあるもので製作した。ハンガーネット2枚で透明なホースを挟み、木玉にゴムを通したもので固定している。どの遊具も反対側からも木玉を入れたり、出口をふさいで木玉を沢山入れたりして遊ぶ姿があった。

④ 小さな家

コピー機梱包材の段ボールで製作した。底のない大きな段ボールの上部を台形に切り、屋根とした。壁面と屋根は水性アクリル塗料で着色した。屋根に通した紐を結べば立体的に固定できる。

窓やドアをつくり、カーテンをつけた。カーテンは取り外して洗濯できる。壁面の一方を切り、下部を折ってテーブル状に紐で固定し、商品に見立てたおもちゃを並べてお店ごっこができるようにしている。

1歳以上の幼児が喜んで入って遊んだ。実際の活用場面では保護者がカーテンの一部を取り外していた。外から見守るためにはどこかは開けておくとよい。

オレンジ色の屋根、壁が白の家には、周囲に春から初夏の草花を描いた。ツバメ、三毛猫、リス、ネズミも描き、見ても楽しいものとした。蝶やバッタ、カマキリ、テントウムシなど昆虫もいる。

屋根が青で壁が白い家には、周囲にヒマワリ、朝顔、キキョウなど夏の花を描いた。靴箱と水道を描き、保育園の様な外観とした。壁には七夕飾りや、きゅうりを栽培している様子を描いた。一方の窓は鎧戸とし、上下に開け閉めできるようにした。ベッドやテーブルに見立てることができる箱、小さな布団、紐で引く車などをつくり、「保育園ごっこ」ができるようにした。

④ さかなつり

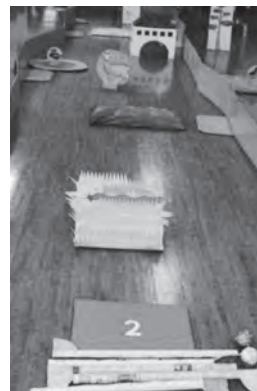
魚はフェルトでつくり、面ファスナーで釣りあげられるようにした。釣り竿は竹割箸をフェルトで包んでいる。釣り糸の先には、ペットボトルのふたを中心にして、丸く切ったフェルトの中央部分に面ファスナーと紐を縫いつけたもので包んでいる。池は布を楕円に切り、中表にして縫いつけた後、返して



端を押さえた。

⑤ ゲートゴルフ（注3）

資料（注4）にゲートゴルフのゲート、クラブ、ボールの製作方法が掲載されていたが、そこから発想してゴルフ場の環境（クラブハウス、池、草地、斜面、動物、樹木）を加えた。2歳以上児が繰り返し遊んだ。



⑥ 小さなペットボトルを使ったタワー

容量125mlペットボトルを使って遊べるものを製作した。段ボール板を四角や丸に切り、水性アクリル塗料で着色した。写真左側の塔は東京タワーである。板に番号を付け、順に積み上げる。丸いタワーは板の大きさを変えた。子どもは板の大きさに構わず積み上げることが多かった。そっとボトルを置き、そっと板を重ねて、最後まで積み上げて遊んだ。板を中心に置かず、斜めに傾く場面も多かった。



⑦ コロコロ・ゴーロゴーロ

前記「コロピョン」の発展で発想し製作した。ホースをゆるいカーブを描くように木製の土台に固定した。木玉を受ける台に大きめのアルミ製漏斗を乗せる。木玉は透明なホースの中をゆっくりと転がって落ち、漏斗の受けで何度もゴーロゴーロ回転しながら木箱に落ちる。このゴーロゴーロ回るのが特徴である。ホースの右端は木玉を入れやすいように斜めに切った。1歳以上の幼児が繰り返し遊んだ。直接漏斗に木玉を落として遊ぶ姿も見られた。



(2) 著者の指導で学生が製作したもの

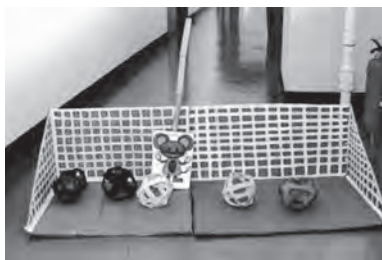
① キャタピラ

資料（注5）を見て製作した。窓があるので進路が見える。側面の端を紐状のゴムで留めているので、丸い形を保ち遊びやすい。2歳以上児が喜んで遊んだ。

② サッカーゴール

資料に掲載されていたサッカーゴールの作成例から発想して製作した。全面を緑色で塗り、白でネットを描いた。キーパーの動かし方によって難易度に差をつけること

ができた。新聞紙を巻いて輪にし、それを3個組み合わせて製作したボールを使う。保育フェスティバルでは、キーパーの練習をしたいねずみさんが、子ども達にシュートをしてもらうという設定で遊んだ。



③ もぐらたたき

この遊具は『段ボール箱に穴を開け、そこに牛乳パックを差し込んでもぐらたたきをする。』といった記述を読んで製作した。牛乳パックの中に巻いた新聞紙を詰め、丈夫にした。ハンマーも牛乳パックに新聞紙を詰めて製作した。土台の後ろ側の面は開いており、手を入れて下からもぐらを押し上げる。



保育フェスティバルでは、いたずらもぐらさんが畑を荒らすので、懲らしめてほしいという設定で遊んだ。2歳以上児が喜んで遊んだ。一度に二人で遊べるが、子ども二人だと危ない場面があったので、子ども一人か親子で遊ぶのが望ましい。

この遊具は壊れやすいのが難点である。もぐらが土台から抜けて下に落ちるので、もぐらの頭に少し大きめの段ボールを貼りつけたが、これもしばらくすると取れてしまった。糸や針金でしっかり留めるとよい。

④ 動物ゴール

学生が資料を見て製作していたものに、補強の仕方等を指導した。子どもが手をついてくぐれる位の大きさである。保育フェスティバルでは0・1歳児の部屋でボールを転がして入れるゴールにして遊んだり、2歳以上児の部屋で運動遊びサーキットのスタート地点として使ったりした。運動遊びのスタート地点として適しているのか、喜んでくぐり、何度もチャレンジする姿があった。



⑤ 動物立体パズル

学生が動物パズルを製作したいということで、共に製作した。学生は平面の絵のパズルをイメージしていたが、立体的に製作したらと助言した。組み立てて遊ぶが、学生のアイデアでキリンの口を薄く開け、木の葉型に切った色画用紙をえさに見立て、「キリンさんに木の葉を食べさせよう。」と言って遊ぶことができた。

箱をばらばらに置いて、全体像をイメージさせて組み立てるという遊びを想定していたが、幼児教育担当教員から「出来上りの写真を見せた方がよい。」というアドバイスを受け、全体像の写真を見せてから組み立てた。

立体的に組み立てるのは幼児には難しいようで、全体を気にせず積み上げる姿があった。心理学担当教員から「立体的にとらえるのは、幼児にとっては簡単ではない。」という話を聞くことができた。

キリンのパズルは平成26年度の保育フェスティバルでは会場入り口の装飾として活用した。



⑥ 輪投げ

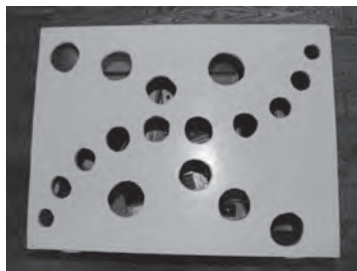
竹を使った輪投げを製作した。輪切りにした太い竹を土台に接着し、輪切りにした細い竹を差して分解して運べるようにした。輪はチラシを巻いてセロハンテープで固定している。また、保管用の布袋を製作した。2歳以上児の遊び場で活用した。



⑦ 音の出る箱（木玉落とし）

穴から木玉を落とすと、音が鳴る遊具である。音楽療法担当教員が使用していた段ボール製のものを参考にした。

桐材で木箱をつくり、一面に楽器を出し入れする大きな開口部がある。他二面に木玉を落とす丸い穴をいくつか開けた。上面だけに穴を開ける予定であったが、学生のアイデアで、側面にも穴を開けた。その面を上になれば、箱の高さを変えて遊ぶことができる。



箱の中には鉄琴（音毎に板が分かれているもの）を入れた。空き缶や太鼓などを入れてもよい。木玉は木地のままの他、毛糸で編んで包んだもの、刺繍糸で巻いたもの、コルク玉にペンキで着色したもの等を使った。毛糸や刺繍糸で包むと音がよく響いた。

幼児が喜んで遊んだ。大きい玉はなかなか落ちない時もあったが、穴の大きさの違いに気付くと、大きな穴まで滑らせて落とした。製作後気付いたが、持ち運びがしやすいように、側面に持ち手穴を開けておけばよかった。

4. まとめ

第1回保育フェスティバルは手探りの状況で開催したが、毎年反省をもとに改善を重ねた結果、先を見通した計画的な運営ができるようになった。本稿「保育フェスティバルの運営」は次年度以降の参考となる。修正を重ねてきた「保育フェスティバル留意事項」については、学生に説明する機会を持ち、それを学生がよく守っているの、会場での学生の姿は素晴らしいものとなっている。

本学の保育フェスティバルの大きな特徴は0・1歳児対象の遊びを提供しているところである。それが出来ているのは本学の音楽療法担当教員の力によるところが大きい。歌いながらの親子遊び、音付け絵本、リズムムーブメントなど学生が自然に取り組み、リハーサルにおいて充実した指導を受けている。また、本学で開催している「子育て支援セミナー」の経験から、運動マットでゆるい傾斜を付けた坂道などの環境を設営したり、0・1歳児向けの手づくり玩具の活用をしたりすることが出来ている。

保育フェスティバルでは1・2年生が協力してプログラムを担当している。このことで、1年生が経験を積む良い機会となり、前年度経験した内容を継続・発展させて取り組むプログラムが見られるようになった。プログラムの内容は学生の意見を聞きながら決めているので、教員が思いつかないような新しい取り組みが出来ている。それも保育フェスティバルの面白いところである。また、早い段階からやりたい内容や歌や手遊びのタイトルなどを聴き取り、内容一覧表を作って内容の重複がないよう調整をしているので、プログラム構成がよくなっている。

学生が経験を積むと同時に教員も経験を重ね、学生を信じて援助できるようになった。第1回リハーサルで形が出来ていなくとも、最後は出来るだろうという予測のもとに指導できている。準備が遅れているクラスもリハーサルを経て自覚し、空き時間や早朝に練習をするなどして、当日はよい内容となっている。

大型遊具については著者が楽しんで製作し、保育フェスティバルで活用出来ている。他では見ない玩具もあり、好評を得ている。何より、来場した子どもが楽しく遊んでいる姿を著者が目にすることができるのは大きな喜びである。

保育フェスティバルに関わる学生が大型遊具を目にすることで、就職後の遊具製作の参考になるのではないかと期待している。また、著者の助言を得て、学生自身が大型遊具を製作することで、製作に関わる知識や技能を向上させ、達成感を得ることができている。保育フェスティバルに来場した保育者が遊具の写真を撮影している場面がある。保育の場において、何らかの参考にして下さっているのではないかと期待している。

5. 今後の課題

保育フェスティバル委員が見通しを持って計画的に準備できるようにすることと、1・2年生の協力体制を一層深めることが今後の課題である。本稿2「保育フェスティバルの運営」(3)「保育フェスティバル委員会運営とリハーサル実施」で示したように、保育フェスティバル委員会を1回増やすとよいと考える。第4回委員会において、「保育フェスティバル保育指導案」を各クラスに配り、「1・2年生の役割分担記録」を見ながら、1・2年生委員で話し合いを行い、言葉掛けや保育の流れや立ち位置等について、話し合いながら記入してはどうか。そうすることによって、1年生が自分達の役割を早い段階で知る

ことができ、2年生にとっても、保育の流れや立ち位置等を意識した上でリハーサルに臨むことができるのではないかと考える。

製作コーナーは好評ではあるが、運営に関しては模索中である。平成26年度に1ヶ所で午前・午後ともに同じ内容で実施したが、場所を2ヶ所にするべきか、午前と午後で内容を替えるべきか今年度実施の反省をふまえながら、検討していくとよい。

平成25年に実施したミニコンサートが好評であった。0・1歳児と2歳以上児のプログラム両方に音楽鑑賞活動を入れ、音楽の楽しさを味わうとともに、歌詞を示して、親子で一緒に歌ったり、楽器を使って共に演奏したりするとよいと考える。音楽が得意な学生でグループをつくって実施するとよい。「ボランティア実習」「音楽療法関連科目」を選択した学生のなかからミニコンサート担当(6名程度)の希望者を募ってもいいかもしれない。ミニコンサートは「音楽教育に強い」宮崎学園短期大学にふさわしいプログラムとなると考える。

保育フェスティバルに関する教員からの感想で、「保育フェスティバルに関わる学生数が減り、クラス全体で盛り上げていこうとする姿がない。」というものがある。実際その通りで、保育フェスティバル委員は素晴らしい内容の実践を行っているが、それが他の学生にあまり伝わっていない。保育フェスティバルに関わる学生が少なくなった理由は、イオンでの実施に昼食補助費を渡しているの、経費削減のために委員の数を減らして来たからである。委員の数を減らす一方で、「ボランティア実習」履修者を活動させており、そのボランティア履修者を学生の希望通りに受け入れたため、平成26年度は平成25年度に比べて学生数が10名以上の増加となってしまった。保育フェスティバルに関わる学生数について、どの程度ならば適切だと言えるのかは今後の課題である。

本学保育科では資格免許取得のため、授業科目が多く、1年生は特に時間割上空きコマがほとんどない。また、遠距離通学の学生やアルバイトをする学生も多いため、放課後に保育フェスティバル委員会を開催する時間が持てない。そのため、1ヶ月に2～3回実施している水曜4限の「ガイダンスアワー」から40～60分の時間を使い、保育フェスティバル委員会を実施している。このガイダンスアワーを使つての委員会実施には委員の欠席が少ないという利点があり、今後も継続していきたい。しかし、保育フェスティバル委員会の時間を確保するためにその都度学年会との調整が必要となっている。ガイダンスアワーの年間計画に保育フェスティバル委員会の予定を入れることができれば、学生に委員会開催日を早い時期から明確に示すことができ、より計画的な保育フェスティバルの運営ができると考える。

著者は、保育フェスティバルはこれまで経験を重ね、充実した内容で実施できるようになり、好評を得ていると感じている。これからこの保育フェスティバルをどのようなイベントにしていくのが今後の課題である。宮崎学園短期大学としてふさわしい保育フェスティバルの実施回数、実施内容、使用会場、実施規模や経費さらに宮崎国際大学や宮崎市と協力できないか等については今後の課題である。

注1 『教育研究第8号』宮崎学園短期大学 平成24年3月発行32頁～34頁 「イベント会場を彩る幼児のための手づくりおもちゃ」で報告した。

注2 『教育研究第9号』宮崎学園短期大学 平成25年3月発行29頁～31頁 「透明なホ

ースと木玉を使ったおもちゃ『コロピョン』製作」で報告した。

注3 『教育研究第10号』宮崎学園短期大学 平成26年3月発行 「見て美しく遊んで楽しい手づくりおもちゃ～ゲートゴルフ～」で報告した。

注4 『いまいみさのハッピー手作りおもちゃ』「作ってあそぼう！⑩ゲートゴルフ」2014年1月19日（日）毎日小学生新聞 6頁上段掲載

注5 『遊べる段ボール工作ア・ラ・カルト』石倉ヒロユキ著 小学館 2007年発行62頁～65頁「ごろごろダンゴムシ」

幼児音楽教育におけるピアノ指導法の研究 「ブルグミュラー 25の練習曲」から

池田 敦子 田中 幸子

Research of Piano Teaching Method in Childhood Music Education
From “A Performance of F.Burgmuller’s 25 Etudes”

Atsuko IKEDA Sachiko TANAKA

キーワード：ブルグミュラー、標題音楽、ピアノ学習、練習曲

1、はじめに

保育士、幼稚園、小学校、中学校音楽教員の採用試験は「弾き歌い」を含めたピアノ実技が課題として指定される事が多い。初等科音楽教育法には、音楽の目標と理念は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基本的な能力を培い、豊かな情操を養う。」と書かれている。学生は生徒に音楽活動を通して、さらに聴きたい・弾きたい・歌いたい、など音楽の楽しみを感じさせ、音楽の素晴しさや美しさを感じ取り、それを表現出来るような演奏能力を児童・生徒に指導しなければならない。

筆者は宮崎学園短期大学でピアノ指導を実施し、音楽科の教科では「伴奏法」、初等教育科の教科では「音楽Ⅰ・Ⅱ」、保育科の教科では「器楽Ⅰ・Ⅱ」、を担当している。音楽教育において即戦力として働ける保育士、幼稚園、小学校、中学校音楽教員を目指し指導をする中で、コースにより演奏力が違うのは当然とおもわれたが、どの学科も楽曲の構成面や、リズム感、和声感、メロディー感、フレーズ感などの表現の技能面に弱さを感じた。学生自身が、音楽の良さ、楽しさを感じ、それがわかる感性、それを表現できる技能が足りないのである。

そこで5年程前から音楽科「伴奏法」、初等教育科「音楽Ⅰ・Ⅱ」、保育科「器楽Ⅰ・Ⅱ」の授業時間の内少しを使い、標題音楽のブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材として、演奏力、音楽力を培う試みを実施した。

本論は「ブルグミュラー 25の練習曲」から数曲を選び、指導の立場から有効性を考察したものである。

2、ブルグミュラーについて

ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルグミュラー〔Johann Friedrich Franz Burgmuller, 1806-1874 12月4日〕は南ドイツのレーゲンスブルグで誕生。

父はヨハン・アウグスト・フランツ・ブルグミュラー〔Johann August Franz Burgmuller 1766-1824〕で若いころからワイマールの劇場などの音楽監督を歴任し、デュッセルドルフでは指揮者として働きライン音楽祭を創設、1821年に初代デュッセルドルフ市音楽監督に就任した音楽家である。弟のアウグス・ヨーゼフ・ノベルト・ブルグミュラー〔August Josef Norbe〕とフリードリヒはデュッセルドルフで両親から音楽の指導を受

けながら育った。フリードリヒはチェロとピアノの演奏、ノベルトは作曲とピアノの才能を開花させた。

実力派の父はフリードリヒが17歳の時に他界。音楽家としての道を地道に歩み始めた。1834年28歳の時にパリに移り住みピアノ教師をしながら、600曲近くのピアノ小品やバレエ音楽「パリ」、舞台用オーケストラ作品、歌曲なども書いた。

エチュードは「25の練習曲」op100、「12の練習曲」op105、「18の練習曲」op109の3冊を残している。その中でも「25の練習曲」は最も有名な曲である。

3、「25の練習曲」授業内容

筆者がまず演奏し、以下の事を取り入れイメージなど感覚的なこと、演奏テクニック、音楽の理解を深めた。さらに曲の望ましい演奏について明確な表現と、それを習得するための練習についての知識、研究姿勢を持たせ、音楽力と演奏力の上達につなげた。

- ・演奏がどんなふうに聴こえたか感じ取る。
- ・標題からのイメージを考える。
- ・同じ標題の曲を調べ、鑑賞する。
- ・音楽用語を理解し、どの様に演奏するか考える。
- ・曲の構成を読み取り、和声感、リズム感、旋律感なども考える。
- ・標題からのイメージに合った演奏をしているか確かめながら演奏する。
- ・メロディーと伴奏に分けてバランスを考えながら演奏する。
- ・曲の分析をする。

○「25の練習曲」第3番「牧歌」「パストラル」

◎演奏がどんな風に聴こえたかは、ほとんどの学生が「穏やか。広々とした感じ。」等であった。

◎牧歌とは羊飼いに代表される牧童の歌や羊飼いを題材とする田園的な風景を描写しているのだから、標題からのイメージは広い草原に、羊や馬を穏やかに楽しく世話をしている牧童が歌っている様子である。

◎同じ標題では、アレクシス・エマニュエル・シャブリエ〔1841－1894パリ〕作曲の「牧歌」とフランツ・リスト〔1811－1886バイロイト〕作曲の「牧歌」を取り上げた。シャブリエの「10の絵画ふう小品」第6番「牧歌」はオーケストラにも編曲されとても評価されている。この曲ものどかで魅力的な曲である。筆者が演奏し標題音楽を感じ取ってもらったスイスの田園的な風景を感じさせる美しい曲のリストの「巡礼の年第1年スイス」から第7曲「牧歌」も鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・Andantino [アンダンティーノ] ほどよくゆっくりよりやや速めに
- ・dolce cantabile [ドルチェカンタービレ] 愛らしく、歌うように
- ・cresc. [クレッシェンド] だんだん強く
- ・tenuto [テヌート] 音符の示す長さいっぱいのにばす
- ・diminuendo [ディミヌエンド] だんだん弱く
- ・dime poco rall [ディミヌエンド・エ・ポコ・ラレンタンド]
だんだん弱く、少しだんだんゆるやかに

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏A B A' コーダ」の3部形式 8分の6拍子 ト長調

• 前奏〔1小節目～2小節目〕

2小節の短い右手だけの前奏は、やわらかく歌う様に演奏。レガートと示してあるがここはモルトレガートの前に前の音と次の音が少し重なって弾く位の感じで奏し、自分の音が滑らかに歌えているかどうかきちんと確かめながら奏す。

• A〔3小節目～10小節目〕

3小節目メロディーラインの前打音は、指や手の力をぬいて音が硬くならない様レガートに歌って弾く。和音伴奏はト長調の主音の保続音をメロディーとのバランスを考えてピアノッシモで奏すが音が浮かない様に注意する。

5小節目の装飾音はテンポが変わらない様に装飾音は前に出し、やわらかく、美しく奏す。

9小節目から大きさを出していく。伴奏も属調のニ長調に変わっている。

10小節目の4拍目は、2オクターブの開きがあるので音を見てきちんと奏す。

その後にある8分休符も音楽の流れの一つなので大切に扱う。

• B〔11小節目～18小節目〕

メロディーはやや大きさをもって15小節目のCisに向かってクレッシェンドをしていく。15小節目は表情豊かに奏す。伴奏の和音はメロディーとのバランスや響きを確かめながら奏す。内声伴奏Dの保続音は、左手の1の指が硬くならないように気をつけリズム、テンポを正確に取り、柔らかく、やさしい音で奏す。

15小節目の左手Bの連打音、16小節目の右手Esの連打音はスタカート、レガート、指使い、音量など注意し気持ちをこめてていねいに奏す。それから美しく歌いディミヌエンドしていく。18小節目の伴奏Dの音のタイ、8分休符を意識する。

• A'〔19小節目～26小節目の1拍目〕

19小節目から静かで甘くやわらかいテーマに戻る。

22小節目からだんだんメロディーは上行、伴奏は下行しながらクレッシェンドで盛り上がり、25小節目のフレーズの終わりはディミヌエンドで丁寧に歌う。

• コーダ〔26小節目の2拍～最後〕

だんだん弱く、少しゆるやかでやわらかなスタカート、ピアノッシモで美しく消えるような音で曲を閉じるため、鍵盤からの手のはなし方、ペタルの足のあげ方にも注意して意識的にゆっくりする。

◎「伴奏法」「音楽Ⅰ、Ⅱ」「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業では自分のイメージに合った演奏を発表し、「伴奏法」の授業ではメロディーと伴奏にわけ、連弾としても勉強し伴奏の指導も行った。

◎曲の分析を行った。〔1〕

○第15番「バラード」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「はじめのハ短調の和音から神秘的に曲に入っていく感じが魅力的だ」等であった。

◎バラードとは19世紀の自由な形式のピアノの小品で、ロマン的な物語をあつかい、